

🌈 今月のコラム

ネットでオープンガーデン (オープンガーデンの会で検索してもトップに出ます)

日本ハンギングバスケット協会常任理事 伊藤孝巳

イギリスのオープンガーデン

そもそもの始まりは、約80年前、看護婦に年金を支給する為の資金集めの手段として、ナショナル・ガーデン・スキーム (NGS) という慈善団体が始めたもので、イエローブックと称される本に参加庭園や公開日等が記載されています。私も数多くのお庭を訪問しましたが、庭めぐりツアーでは地元の元領主とか、比較的富裕層のお庭が多かったように思います。

町ぐるみ、村ぐるみでこの行事に参加する所もあり、一度コッツウォルズ地方の小さな集落で10軒程の人がグループで年1回だけオープンガーデンしている事を、先記のイエローブックでみつけ見せて頂いた事があります。ガーデニングが国民的趣味といわれるイギリスの庶民のお庭を拝見するには「イエローブック片手に庭めぐり…」が最高です。



イギリスコッツウォルズ地方の小さな集落。こんなステキなかやぶきの家があって、家の裏側のガーデンをみせて頂けました。

日本のオープンガーデン

ところで日本でも、近年、オープンガーデンという言葉をよく耳にするようになりました。全国各地に多くのグループが立ち上がり、行政やその外郭団体が関わっているところでは、イギリスのイエローブックのような黄色い表紙のガイドブックまで作ったり…。関係者の努力は大変ですが、イギリスのオープンガーデンに比べると、日本の場合は地域限定の小グループが立ちあがりつつある途上で、今後どのように発展し、またどんな形で定着するか…今のところ私には先が読めない世界です。超影響力のあるメディアとか「菊のご紋章」でもない限り、イギリスのように定着する事はないと思われます。

私がオープンガーデンに参加しない理由

私も個人的に小さな庭でいろいろ楽しい遊びをしていて、多くの人に勤めてあげたいアイデア等もあります。でもオープンガーデンには参加できません。まず沢山の人に来訪されると不法駐車で近所に迷惑をかけます。小さな集落では防犯上でもあまり賛成されないでしょう。それに私自身が時間的余裕が全くなく、対応できない、という事です。オープンガーデンをしたら1週間で1000人をこえる人が…という例を何人かの人から聞いてビビってしまいました。

沢山の人が関心をもっているという事はわかりますが、沢山の人に来訪されたら困るという人もきっと多いと思います。

日本流のオープンガーデンを考えてみました

ガーデンを通じ多くの人と交流できる…イギリス式のオープンガーデンの魅力はよく理解していますが、今の日本の諸事情からして、もう少し違うスタイルのやり方もあるはず。いつでもどこのお庭でもお金も時間もかけずに来訪できる。予約の連絡も、手土産もいらぬ…そんなすばらしいシステムがインターネットを使えば簡単に実現できると思つた訳です。従来のオープンガーデンのイメージはバラと芝の大規模な花壇や庭ですが、本当に参考になるのは小規模な住宅庭園や坪庭、ベランダガーデンなどで、実際に足を運んで見に行く事のないものかもしれません。

また従来のオープンガーデンではシーズンが限定されますが、インターネットなら1年中オープンできます。もし今日、私の庭に訪問されても「すみません5月にはキレイになります」と言い訳せねばなりません「ネットでオープンガーデン」なら、いつも最高に美しい状態でお迎えます。どうぞ今晩1000人でも訪問して下さい。私は寝てますけど… (個人庭の部 愛知県瀬戸市1T庭をクリックして下さい)



長野県では花とガーデンの美しいペンションの紹介という部分に力を入れたらどうでしょう? 写真はペンションフィールドノート清水さんの提供

日本ハンギングバスケット協会が運営

「ネットでオープンガーデン」の企画・運営は全国の1900名のマスターの力を結集し日本ハンギングバスケット協会で行う事になりました。

とりあえず愛知県で試行、検証し、将来は各県別に見る事ができるよう発展させます。目標として庭部門1000件、バスケットやコンテナ作品800点を集めます。また集めた情報をいろいろな角度から分類し、特別企画として発信する事も考えています。まず手始めに「花の座を意識したハンギング」というテーマで15作品を集めた企画をUPしてありますのでぜひ見てください。将来、個人庭部門でも「住まいの小庭園」とか「坪庭の花飾り」とかいろいろな企画が実現したらとても楽しいウェブサイトになると思います。

どうぞ皆でもりたてて頂けますようお願いいたします!!



カエデ
kaede

● 2月関東地区勉強会 2月13日 募集中

「もう一つ、後一步、 まだまだ 泥臭い販売戦略を学ぶ勉強会」

コーディネーター 高橋 乃(イーグルサム)

業界元気会社の関東、東海、関西、若手元気印勢揃い、
元気をもらって今年も頑張りましょう。

◇開催日 2009年2月13日(金) 14:00～
シモジマ6号館(東京都)

◇参加パネラーの皆様

- ☆東京花壇 佐藤 陽一さん
- ☆ハクサンインターナショナル 稲垣 宗徳さん
- ☆花ごころ 松永 透さん
- ☆ニチカン 林 良樹さん
- ☆アップルウェア 田中 太助さん

◇詳細はホームページで

<http://www.npogarden.com/houkoku.htm>

締め切り 2月 9日(月)

藤田 智先生、深町 貴子先生の 「すずなり野菜&おもしろ野菜」セミナー盛況



1月セミナーは1月20日午後、大原ビックフェスティバルが開かれていた京都パルスプラザで行いました。今回はテレビや雑誌などで幅広く活躍されている藤田智先生と深町貴子先生。

藤田先生は、家庭菜園の第一人者とよく知られており「おもしろ野菜」をテーマに家庭菜園の魅力が「会社では努力した結果が必ずしも報われることはないかも知れないが、野菜は、虫をとる、雑草をとる、暑い時に一生懸命やった結果が収穫の時に報われる喜び、安全安心に食する喜び、四季を感じる喜び、コミュニケーションのツールとしての喜びなどいくつかでもある」などと、取り組む人たちも20代から70歳代と幅が広いのが特徴である、としました。

深町先生は、「ポタジェガーデンを目指して何がかわるか」をテーマに話していただきましたが、ポタジェガーデンについて『美しい』『楽しい』『面白い』を求めた花壇作り、庭作り、畑作りが一緒になった庭である、としました。また、植物や菜園作りを通してコミュニティーの大切さ、人と人、人と自然のふれあいが生きていく上でいかに大切かを語りました。



日本フラワー・オブ・ザ・イヤー2008

角田ナーセリーの“まどか”ほか、向山蘭園のシンビ、サカタのタネのトルコギキョウ

3年目を迎えた日本フラワー・オブ・ザ・イヤー2008の授賞式が12月10日、東京・南青山会館で開催され、最優秀賞であるフラワー・オブ・ザ・イヤーに花壇苗・コンテナ苗等部門では、角田ナーセリーの「カレンジュラ まどかチーストレテ」が選ばれ、鉢物部門では、向山蘭園のシンビジューム「メモリーズ オブ ユー」、切花部門ではサカタのタネのトルコギキョウ「ロジーナR ラベンダー」が選ばれた。主催はジャパンフラワーセレクション実行協議会(日本花普及センターなど)。

今回の出品数は、花壇・コンテナ苗部門33点、鉢物81点、切花48点の162点で、入賞数は112点であった。授賞式には、麻生総理大臣夫人・千賀子氏が特別ゲストとして出席し、受賞者から、それぞれの花が贈呈された。



受賞者の皆さんと前列、佐藤安弘日本花普及センター会長、総理大臣夫人 麻生千賀子さん

エコプロダクツ2008

出展社数20%増、入場者数も6%増 緑化システムが注目集める

日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ2008」が12月11～13日、東京ビッグサイト東1～6ホールで過去最大規模で開かれ、入場者数は前年を6%上回る約17万4千人であった。出展規模は、20%増の785社、出展小間数は28%増の1796小間と年々規模が大きくなり、環境に対する関心が高まっている。

グリーン関係では、モス(苔)の出展が多かったが、農林水産大臣賞を受賞したNTTグリープの「グリーンポテ(屋上サツマイモ水気耕栽培システム)が子どもの人気を集めていた。経済産業省からグリーン・サービサイジング実証事業の認定を受けたプラネットの「アーバングリーンカルチャーサービスー環境に配慮した循環型生産緑化システムー」、大和リースの「グリーンスケープ・トータル・ソリューション」、エココスモの「クレピア緑風花」などが注目を集めていた。



屋内にも対応、サントリーが提案した土を使用しない緑化システム「ミドリエ」

会員紹介

四国化成工業株式会社

豊富なカラーバリエーションと多彩な表現力を備えた塗り壁と、住まいの外観に個性を与えるエクステリア商品をご提供し、内外装をトータルにコーディネートします。また、機能性・デザイン性に優れた景観用商品も豊富に品揃えしています。四国化成は、“自然にやさしい、やすらぎの空間”をキャッチフレーズに、快適な住まい環境作りを提案してまいります。



お問い合わせ

お客様相談室 0120-212-459

受付時間 9:00～17:00(土・日・祝日・年末年始・夏期休暇を除く)

インターネットからは <http://kenzai.shikoku.co.jp> URL <http://www.fukuiseeds.co.jp>

事務局だより

ガーデンを考える会

事務局 TEL 052-571-7911

寒さが厳しいこの季節。しかしチューリップなど球根の芽が出始め、草花もつぼみをつけ始めたり、春が近づいているのを感じるこの頃です。



会員コラム

日本列島植木植物園

国際もみじシンポジウム in Japan 2008 盛況に終わる!

日本植木協会 小林 隆行 (小林ナーセリー)
桜井 なおみ



S. ネルソン氏の挨拶

11月12日・13日、日本列島植木植物園構想の設立5周年を記念し、国際もみじシンポジウム in Japanを本協会の主催により埼玉県川口市・川口緑化センターで開催。両日ともに海外から7カ国約60名、日本から約90名(講師を含む)、総勢約150名が参加をし、カエデをテーマとした日本初の国際的な学術、人材交流をした。

初日は本協会の幡谷勉会長による歓迎の挨拶にはじまり、メイプルソサイエティを代表してシャロン・ネルソン氏、同事務局長のプライアン氏の挨拶の後、近藤増男委員長から日本列島植木植物園構想発足の経緯について講演した。

続いて、ダニエル.J.ヒンクリー氏よりアジアと北アメリカのカエデの生育分布の歴史や最近の栽培状況、その特徴について、また、リチャード.T.オルソン博士からは米国におけ

るカエデの品種改良の手法や歴史について講演が行われた。午後は、国内・国外参加者の2班に別れ、国内参加者は埼玉県花と緑の振興センター、小林もみじ園(埼玉県川口市)へ、国外参加者は東京都分寺市の司メイプル、東京学芸大学へ、小雨降りしきる中で、現地視察を行った。

二日目は岡村幸四郎川口市長から、植木のまち川口市の歴史や施設概要、本シンポジウムの開催意味や意義について挨拶を頂いた。

続いて、横井政人千葉大学名誉教授、国分尚千葉大学准教授、矢野正善氏により、美しい写真とともに日本のカエデ最新品種が紹介された。

休憩をはさみ、川原田邦彦氏から日本のカエデ園芸品種の栽培方法について講義が行われ、日本のカエデ園芸文化の歴史、樹芸文化に関わる話題の他、特に「接木」の栽培ポイントについて写真を用い、分かり易く解説された。

午後はベネチェック博士からヨーロッパのカエデの分布状況や形態の特徴について、大変詳細な研究成果に関する講演、次に村越匡芳氏から、日本の野生のカエデ属の分布状況について講演が行われた。質疑応答も盛んに行われ、参加者同士の議論も深まった。

次に特別ゲストとしてお招きした荻巣樹徳先生から、約30年間にわたる中国、ベトナムでのフィールドワークの成果について講演が行われた。荻巣先生が発見をし、日本へ紹介した数々の植物や、写真でしか見ることのできない幻の植物が約70紹介された。

最後に、三上常夫氏より二日間にわたる国際シンポジウムの総括が行われ、二日間にわたる国際シンポジウムは盛況のうちに終了した。

会場内には、約60種のカエデが展示され、多くの海外参加者が見入っていた。また、協会の方から日本の秋を代表する食べ物(漬物や柿など)が届けられ、休憩時間には、和やかな笑顔と国際交流の輪が広がった。

夕刻からは会場を埼玉県の浦和ロイヤルパインズホテルに移して交流会が開かれ、メイプルソサイエティから本協会へ、書籍や開催を記念した楯の贈呈などあった。

地元新聞社の取材も多く、日本列島植木植物園の5周年を祝うに相応しいシンポジウムとなった。シンポジウムの運営・開催に携わった関係各位、視察協力を頂いた皆様、メイプルソサイエティに深く感謝の意を表します。



熱心に講演を聴く参加者



講演を終えて記念撮影